茶関連視察報告書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　八女市議会議員　栗原吉平

令和7年１月28日～30日

* 視察一日目　京都府宇治市

宇治市茶のミュージアム「茶づな」

対応　ミュージアム職員による案内

宇治の茶にまつわる体験プログラムの内容は、茶臼を使った抹茶づくり体験し挽いた抹茶を点てて飲む→￥2300

その他、茶筒作りや絵付け、茶染、コースター作り、抹茶お点前体験、茶のアロマ体験、茶を使ったハンドバーム作り、茶飴づくり、書道体験、窯元の京焼、聞き茶体験、それぞれいろんな茶を使った施設であり、これだけメニューある茶の関連施設の施設を八女にも必要と感じた。

※視察二日目　奈良県生駒郡斑鳩町

　　法隆寺ゆかりの茶室「待清庵」　　対応　主宰　蒲　規世子様

世界遺産法隆寺に建てられた茶室、小さな茶室ですが庭と茶室が歴史を感じる

外国人の訪問にも英語で対応している。

※視察三日目　広島市

「cha-no-wa」茶の環

対応　広島そごう店

広島県内に茶関連の店舗販売し主に抹茶関連製品多く、抹茶需要に商品の多くを占める。広島名物もみじ饅頭を抹茶で使用商品を販売している

　　店舗内にはリーフとしてのお茶が無いのに驚く

所感

　　インバウンドによる茶の消費行動も、その大部分を抹茶が占めていた。

　　抹茶も緑茶としてその部類ではあるが、加工工程が新規の工場を構えなくてはならず、

　　設備投資に既存の製茶工場が使えない事情があり莫大な資金の必要がある。

　　八女市の製茶工場が抹茶工場への切り替えも行われているようだが、本当に今後抹茶が主流となり得るのか、大変苦境な判断が今後生まれるし、後継者の有無を考えながら見極めに苦慮する時期である。行政と農協や業者が生産者と一緒になった施策の必要性を感じた視察であった。